

平成28年10月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館（青梅市駒木町1-684 TEL0428-23-6859）

裏宿町のあれこれ

裏宿町は、青梅駅の西、江戸時代に八王子代官所の森下陣屋がおかれていた森下町の西隣から日向和田境までの町域です。

『武蔵名勝図会』（江戸時代後期）や『皇国地誌』（明治時代前期）等にも記載がある古村で、上裏宿、下裏宿といわれていました。明治年間頃には裏榎（正）町（使われていた時代の詳細は不明）の地名も使われており、熊野神社（森下）には大正14（1925）年9月に奉納された石柱に裏榎町の文字が彫られています。梅岩寺の48か所や大柳の清宝院の賽銭箱等にも裏榎（正）町と記載されています。明治時代後半にも裏榎町と書かれた手紙などがありました。また、戦後には梅園町の地名が使われた時期もあります。現在は裏宿町1丁目、裏宿町2丁目となっています。

また、『新編武蔵風土記稿』（江戸時代後期）には、「うら宿 森下より西にして往還家並の内にて西の限りなれば表裏の裏にあらず、竹木の梢をうらと呼が如く。村の端頭といふ義なりとぞ。」とあります。

江戸時代の終わり頃には甲州裏街道として、旅人、商人や御岳詣での人の往来が多くありました。町の東の方には菓売りや、鍋・釜の修理をする人等の長期滞在者のための簡易宿舎（木賃宿）や、牛馬を連れて歩く旅人には一緒に泊まれる宿屋（牛宿）があり、その近くには牛馬用のくつ（わらじ）を売る家（くつ屋）もありました。また、牛馬をつなぎ止める梨の木（これは街道筋にあった。）もあり、そこで万頭等を提供するお休み処もありました。

また、江戸時代の終わり頃には、傘職人が町内に移り住み、青梅傘が作られるようになりました。青梅傘の製作は大きく分けると、竹の材料作りと組み立てる骨師、紙張と仕上げの張り師の分業制で、町内の多くの人たちが何らかの形で関わっていたそうです。

青梅傘は、町内の産業であり、青梅の一大産業でもありました。

昭和30年代に入ると洋傘が始め、それに伴い、青梅傘は衰退の一途をたどり、代わって青梅織物を業にする人が多くなりました。沢山の夜具地等が織られ、ガチャマン時代に入りましたが、それが衰退すると、機械部品製造業に変わりましたが、それも平成に入ると衰退し、現在は数件残るのみとなりました。

裏宿町では、かつての往時を振り返り、毎年11月に町内自治会の中に文化祭実行委員会が作られ、文化祭が開かれています。

そこでは、町内の方の作品や家に残っている珍しい物を展示するコーナーと、毎年テーマを決め一年間近

くかけて調べたものを発表するコーナーがあります。

青梅傘、織物等の産業、町内にいた有名な方（裏宿七兵衛、高田浪吉、安藤憲三他）、神社仏閣、石仏等の仏様など数多くの企画を展示し、今年で22回目を迎えます。

今年はスポーツ（運動）に関する企画で、戦前から現在までの町内各種団体のスポーツに関する資料、青梅マラソンの第1回目を企画した方、高校野球、ソフトボール、バレーボール、陸上、スキーなどで活躍した方の写真・資料を展示するとともに、市民運動会、子供会の球技大会などの思い出の品を展示します。

また、町内には青梅市立第一中学校と東京都立多摩高等学校があり、校長先生始め、学校関係者の御協力により、スポーツ関係の資料をお借りすることができ、展示することとなりました。

今年も次の日程で裏宿町文化祭が行われます。

御都合のつく方は、是非足を運んでみてください。

- 1 日 時 平成28年11月12日（土）・13日（日）
- 2 会 場 裏宿公会堂（青梅市裏宿町711-1番地）
- 3 時 間 午前10時から午後5時まで（最終日は午後4時まで）
- 4 テーマ 裏宿町のスポーツ（運動）
一般公募展（町内の方などの作品・コレクションの展示）

（文責 東山 啓子）